

4

APRIL
2014

うららかな 春の訪れ



こ が
古河

広
報

No.103

今月の主な内容

- 平成26年度施政方針 2
- 消防春季点検式 7
- 組織機構の改正 8



「市民が主役の まちづくり」の体现を

平成26年度 施政方針

平成26年3月4日から第1回市議会定例会が開かれ、菅谷憲一郎市長が平成26年度の市政運営の基本姿勢を示す「施政方針」を述べました。ここでは、市長が示す基本方針と主な事業の内容を要約して紹介します。

なお、施政方針の全文は、市公式ホームページに掲載しています。

はじめに

私が、市政を担当させていただいてから1年余りが経ちました。

昨年開催いたしましたタウンミーティングでは、延べ1,000人を超える方々にご参加いただきました。内容についても自由な質疑応答の場となるよう努め、市民のみなさまと活発に討論や意見を交わすことのできる機会となりました。今後も行政の基本である「市民が主役のまちづくり」を体现したいと考えております。

本市の発展に向けてメリハリのある行政運営を進めるとともに、市民のみなさまの意見を踏まえて、積極的かつスピーディーな施策展開を図ってまいります。

市政運営の基本方針

合併から10年という節目が間近に迫る中、平成26年度はこれまでの市政を検証し、さらなる飛躍・発展を目指す上での大きな転換期になるものと強く感じております。

本年度は「将来を見据えた新しいまちづくり」を念頭に、活力ある住みよい古河市の実現に向けて、その第一歩を踏み出す年となるようあらためて決意しております。

そのためにも、本市のまちづくりの羅針盤となる第2次総合計画の策定においては、中長期的な視点から将来をしっかりと見通し、「次世代へ繋ぐ」ということを考えた計画としてまいります。

私の目指す行政は「若者に選ばれるまちづくり」です。若者が増えれば、市内の経済が活性化し、税収が増えます。お年寄りのみなさまにも「長生きが幸せ」であることを実感していただける施策の数々が推進できます。

各施策の柱を「教育」「福祉」「環境」に掲げる中、平成26年度については若者の定住促進を図るためにも、子育て支援や教育環境の整備に一層力を入れてまいります。

「人間は教育によってつくられる」という言葉がありますが、人格の形成に最も大切な義務教育段階において、私はより長期的かつ戦略的な視点を持つ必要があると感じております。これを体現する方策の一つに、小学校と中学校の機能的な連結を図る取り組みがあります。基礎学力の定着化や学習意欲の向上はもとより、創造性や感受性を豊かにし、多様な人間関係の形成にも繋がるものです。人生の基盤づくりである教育の力を大切にし、その未知なる可能性を最大限引き出せるよう、今後の新しい義



▲複数の教員で授業を行うチーム・ティーチング。きめ細かな指導で子どもたちの学力を伸ばします

務教育の姿を模索してまいります。

人づくりと並行して重要となるものが、定住人口増加の方策です。少子高齢化の進行に伴う人口減少社会の到来が多方面に甚大な影響を与えることは周知の事実であり、早急な取り組みが必要です。

本市においても、合併後の8年間で約3,400人の人口が減ってしまいました。とりわけ、生産年齢人口の減少は経済活動の停滞や地域活力の低下、福祉サービスの後退にもつながります。行政サービスの維持向上のためにも、安定した財政基盤の確立が不可欠です。

本市を取り巻く社会情勢も大変厳しい状況にありますが、「今、真に求められているものは何か」を意識し、より一層の効率的な行政運営に努める必要があります。

平成26年度予算編成では、多様化する市民ニーズに的確に^{こた}えていくとともに、長引く不況から回復しつつある地域経済を下支えすることが求められているところです。

喫緊の課題に対応する一方で、持続可能な行財政運営を意識した予算編成としました。さらには、中長期を展望し、新市建設計画の計画期間延長等に係る変更を行い、合併特例債を有効に活用してまいります。

組織体制につきましては、効率的で機動的な体制を構築するため、環境安全部を新設し、危機管理体制の強化を図ります。財政部内には財産活用課を設置し、今後策定する「公共施設等総合管理計画」に基づき、全庁横断的な視点から貴重な経営資源の総合的なマネジメントを行います。全体ではさらに3課2室を減らし、一部の組織においては、業務内容が分かりやすい名称に変更します。

総和庁舎東側の旧館は、耐震診断により、震度6強規模の地震が発生した際に倒壊する危険性が高いことが判明しました。安全性を考慮し、旧館を本年5月までに閉鎖することにしました。その他、安全性に懸念のある中央公民館、三和公民館、古河勤労青少年ホームの移転措置等を検討します。

市民のみなさまの利便性に大きな影響を及ぼすことのないよう準備してまいります。

主 な 事 業

教育・文化

● 学校教育施設の整備

古河第一小学校の校舎等改築工事、古河第二小学校の屋内運動場実施設計と改築工事を行います。西牛谷小学校をはじめ5校の校舎または屋内運動場の耐震補強工事を行います。平成26年度ですべての耐震補強が完了します。

● 快適な教育環境の整備

全小中学校の教室にクーラーを順次設置し、夏季の学習効率の向上を図ります。校庭の散水栓が未整備の古河・三和地区小学校に順次設置します。

● 遠距離通学児童の支援

児童の安全確保と保護者の負担軽減を図るため、対象基準を設けて送迎車両による通学支援を実施します。

● 小学校のICT教育の推進

全小学校に大型ディスプレイと書画カメラを導入し、既存の教員用端末と組み合わせた授業を実施します。

● 小中学校教育活動の支援

自然科学教育の推進や学力向上に積極的に取り組み、特色ある学校づくりを目指します。中学校の部活動について備品の購入をはじめとする活動支援を行います。



▲古河第五小学校は平成25・26年度にICT教育モデル校として、ICT機器を導入した授業を実施



▲建設が進む新学校給食センター

● ティーム・ティーチング授業

中学校に教育活動指導員を2人ずつ配置し、きめ細かな指導を行います。

● 新学校給食センターの稼働

2学期からの稼働に向け、建設工事の完了と調理業務委託者の選定を進めます。

● スポーツ施設整備推進構想の策定

既存施設のあり方や新規施設の必要性等に関する整備構想をとりまとめます。

● 中央公民館駐車場の拡張

施設利用者の利便性を向上させるため、現駐車場の東側を拡張します。

福祉・健康

● 地域福祉計画の策定

地域福祉の指針となる第2期古河市地域福祉計画を策定します。策定委員会を設置し、少子高齢化への対応や地域連携の強化、災害時の要援護者支援など、社会の求めに柔軟に即応できるよう計画します。

● 子ども・子育て支援事業計画の策定

計画的な幼児期の教育、保育、地域の子育て支援の提供を目指すため「子ども・子育て支援事業計画」を策定します。

● 子育て広場の設置

地域子育ての交流拠点として、古河総合公園内に子育て広場を設置するための実施設計を行います。



▲安心して妊娠・出産・育児に取り組めるように、母子の心身のケアや子育てをサポート

●妊産婦の支援

妊娠から出産、子育て期まで切れ目のない支援を行う産前産後サポート事業に取り組めます。

●18歳まで医療費助成の拡大

古河市独自の医療費助成(マル古)の対象年齢を18歳まで拡大し、子育て家庭の経済的負担を軽減します。

●救急医療機関の支援

救急医療機関を支援し、円滑な救急搬送と受け入れ体制を確保します。

生活環境

●再生可能エネルギー導入の促進

古河第一小学校、小堤小学校、三和健康ふれあいスポーツセンターに太陽光発電設備と蓄電池を設置します。

●災害時の情報伝達手段の確保

大雨・洪水・暴風などの災害時に防災や避難に関する情報を伝達するため、渡良瀬川や利根川の河川沿岸付近の公共施設に防災行政無線を整備します。



●消防体制の強化

茨城西南地方広域市町村圏事務組合と連携を図りながら、消防体制の強化について検討します。

●防犯対策

増加している管理不全の空き家や空き地を減らし、より安全で安心な生活を確保するため、「空き家等の適正管理に関する条例」の早期制定に向けて、引き続き関係機関との協議を進めます。

●安心安全な水の供給

上水道事業の配水管布設工事を進めます。未加入者への戸別訪問を引き続き行い、特に三和地区の普及率向上を図ります。また、古河・総和地区の石綿管布設替工事を計画的に進めます。

コミュニティ・行政

●コミュニティ活動の育成・推進

地域の実情に合ったコミュニティ活動の推進ができるよう各団体への支援を行います。未設立地区の早期設立促進を図ります。

●姉妹都市の交流

福井県大野市の市制60周年にあわせ、市民の相互交流を図る記念事業を実施します。

●行政改革の推進

第3次行政改革大綱の柱である「健全財政の確立」「職員数の抑制」「ファシリティマネジメントの確立」に向け、着実に推進します。



▲住民が主体となった地域づくり活動
(写真は、じゅうにひとえの会の夏祭り)

産業・労働

●日野自動車古河工場

平成28年までに本社工場を市内へ移転し、本格稼働させることが発表されました。今後、各種工場の建設が予定されています。平成28年度末の従業員数は2,000人規模を想定しており、従業員の定住促進や関連企業の誘致のための取り組みを強めます。

●商工業の活性化と観光の振興

年間を通してさまざまなイベントや祭りを開催し、観光客の増加を目指します。映画やドラマ等の撮影を通して、古河市の知名度向上に繋がります。

●地域農業担い手の育成

農業技術研修や新規就農者に対する支援を引き続き行い、就農者の定着を図ります。

●青果物銘柄産地育成

JA茨城むつみ等と連携し、県の銘柄産地指定をはじめとする地域農産物のさらなるPR活動に努めます。



▲2月20日に新たに銘柄産地指定を受けたサニーレタスとニガウリ

都市基盤

●筑西幹線道路の西側延伸整備

新4号国道から県道境間々田線までの区間の用地取得に向けた調査を実施します。

●野木駅から新4号国道に直結する幹線道路の整備

三和地区北部と野木駅を結ぶ道路の事業用地の確保と工事を進めます。



◀野木町と共同で進めている新4号国道アクセス道路の整備

●道路の新設・改良

未改良の生活道路を整備し、併せて道路と橋梁の補修を行い、安全で快適な交通を確保します。

●デマンド交通・循環バス

利用者からの要望や利用率等を踏まえ、運行区域やコース、ダイヤ等の見直しを検討します。



●公園の整備

ネーブルパーク園内にミニSLを設置し、来園者の増加を図ります。「日本一の花桃の里」を掲げる古河総合公園は、継続的に花桃の更新を行います。

●(仮称)古河駅西口前複合施設整備基本構想・基本計画の策定

古河駅西口前のまちなか再生市民広場用地に、子育て支援機能と図書館機能などを兼ね備えた複合施設の整備について準備をします。市民サービスの拠点を整備することで「活気に溢れ市民が安心して暮らすことができるまち古河」を実現します。



▲市民が行き交い、魅力あふれるまちづくりの核となる施設に

古河市消防春季点検式

市民の安全を守る



2月23日、古河市消防春季点検式が中央運動公園で行われました。消防団員など約500人が参加。団員の服装や姿勢、消防団員手帳の携帯を点検する通常点検、消防ポンプ自動車の機械器具点検が行われました。一斉放水で見せる、きびきびと規律のとれた消防団員の姿は「地域を守る」という強い決意が感じられ、大勢の人々が目を奪われました。

また、古河とび鳶一番組の「はしご乗り、まとい振り」や、三田幼稚園幼年消防隊による「幼年消防隊防火の誓い」が点検式に華を添え、見物客から大きな拍手と歓声があがりました。

古河市 & 羽村市

災害応援協定に続き 観光でも連携を

古河市と東京都羽村市はむらしの両観光協会が、2月4日、インターネットなどを活用して相互の観光をPRする「観光協会を介した交流事業」に関する覚書を取り交わしました。羽村市とは平成25年1月30日に災害時相互応援協定を締結。このことをきっかけに、互いの市が開催する祭りに参加するなど、交流を行ってきました。

今後も、防災のみならず観光でも連携を図ろうと、ホームページやフェイスブック、ツイッター、ポスター、チラシなどを活用し、互いの観光振興につながる観光協会事業を展開していきます。



▲羽村市観光協会と調印を取り交わす古河市観光協会の野村利夫会長(左側)

生き方を変えて 認知症を防ごう



▲約800人が参加した講演会



▶講師の金子満雄院長

当初2月8日に開催を予定していた「認知症予防講演会」が大雪のため延期となり、3月8日にとねミドリ館で行われました。

浜松早期認知症研究所・金子クリニックの金子満雄院長が「認知症を予防する生き方の工夫～生き方を変えれば認知症は防げます～」をテーマに講演。「日常から小さくてもいいから生きがいをもつこと」「毎日5,000歩を目安に散歩を行うこと」など、日ごろからできる認知症予防の秘訣ひけつをわかりやすく解説してくれました。時には、バイオリンを奏でたり笑いを誘ったりと、ユーモアたっぷりの内容で、「あっという間に時間が過ぎていました」と話す参加者もいました。

このほか、認知症介護体験の発表や介護予防レクリエーションも行われ、多くの人々が認知症について考える良い機会となったようです。



古河市組織機構(市役所の課・室)の一部と庁舎内の配置が変更となります

平成25年度に実施した耐震診断で、震度6強の地震により倒壊する危険が高いことがわかり、市民の安全性を考慮した結果、総和庁舎旧館部分は5月までに閉鎖することになりました。これに伴い、総和庁舎と三和庁舎の各課室の配置が変更となります。

また、課題に的確に対応し、市民満足度の向上を図るため、組織機構の見直しを行いました。

【問】 企画課 行政改革推進室(総和庁舎) ☎ 92-3111

子育て環境の充実

【子ども部内の課名変更】

平成25年に新設した「子ども部」内の課名を変更します。

「子ども課」は『子育て応援課』、「子育て支援課」は『子育て対策課』になります。

また、子ども部の配置は「総和庁舎1階」から「総和第2庁舎2階」に移転します。

▼子ども部内の課室名と主な業務

| | |
|--------|----------------------|
| 子育て応援課 | 児童手当、児童扶養手当など児童福祉のこと |
| 子育て対策課 | 保育所、児童クラブなど子育て支援のこと |
| 子ども政策室 | 幼保一元化など、子どもに係る政策のこと |



安全・安心の確保

【防災部門の再構築】

東日本大震災から3年を経過して、危機管理体制の見直しを図りました。

要である「危機管理課」と「消防保安課」を統合した『危機管理防災課』と、市民生活の安全を守る「交通防犯課」および「環境課」を集約し、『環境安全部』としました。より効率的、機動的に対応できる体制となり、災害等に迅速に対応します。

また、市民が安心して暮らせるまちづくりを進めます。

危機管理防災体制の充実



市民生活の安全安心向上



▼組織機構の見直し(新旧対照表)

| 旧体制 | | ➡ | 新体制 | | | | | |
|-------|---------------|---|---------|---------------|----------|---------------|-------------|------------|
| 部 | 課・室 | | 部 | 課・室 | 庁舎等場所 | | | |
| 企画部 | 秘書課 | ➡ | 企画部 | 秘書広報課 | 総和庁舎3階 | | | |
| | 秘書課 広報室 | | | | | | | |
| | 名崎工業団地推進室 | | | | | | | |
| 総務部 | 総務課 法務対策室 | ➡ | 総務部 | 総務課(総務課に統合) | 総和庁舎2階 | | | |
| | 総務課 男女共同参画室 | | | | | | | |
| | 行政管理課 | | | | | | | |
| | 情報管理課 | | | | | | | |
| | 危機管理課 | | | | | | | |
| | 消防保安課 | | | | | | | |
| | 交通防犯課 | | | | | | | |
| 財政部 | 管財課 | ➡ | 財政部 | 財産活用課 | 総和庁舎1階 | | | |
| | 契約検査課 | | | | | 総務部 | 契約検査課 | 総和庁舎1階 |
| 生活環境部 | 自治振興課 | ➡ | 市民サービス部 | 市民協働課 | 総和庁舎1階 | | | |
| | 自治振興課 市民活動支援室 | | | | | | | |
| | 自治振興課 人権推進室 | | | | | | | |
| | 環境課 | | | | | 【新設】 環境安全部 | 環境課 | 三和庁舎1階 |
| | 環境課 環境施設管理室 | | | | | | 環境課 環境施設管理室 | 古河クリーンセンター |
| 市民学習部 | 生涯学習課 | ➡ | 文化スポーツ部 | 生涯学習課 | 古河庁舎2階 | | | |
| | 文化課 | | | | | | | |
| | スポーツ振興課 | | | | | | | |
| | 施設管理課 | | | 施設管理課 | | 中央公民館内 | | |
| 子ども部 | 子ども課 | ➡ | 子ども部 | 子育て応援課 | 総和第2庁舎2階 | | | |
| | 子育て支援課 | | | 子育て対策課 | | | | |
| 産業部 | 商工政策課 | ➡ | 産業部 | 商工政策課 | 総和第2庁舎3階 | | | |
| | 観光振興課 | | | 商工政策課 企業誘致推進室 | | | | |
| | 観光振興課 物産振興室 | | | 観光交流課 | | | | |
| 建設部 | 道路課 | ➡ | 建設部 | 道路整備課 | 三和庁舎1階 | | | |
| | 地籍調査課 | | | 用地管理課 | | | | |
| 上下水道部 | 下水道課 施設管理室 | ➡ | 上下水道部 | 下水道課 下水道施設管理室 | 三和庁舎2階 | | | |



※組織編成(再編、統合、所属)や名称に変更があった部署のみ掲載しています。

組織機構の改正

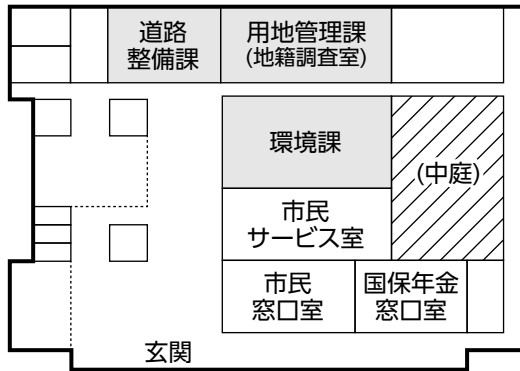
各庁舎の配置が変わります

※名称・場所の変更があったフロアのみを紹介します。

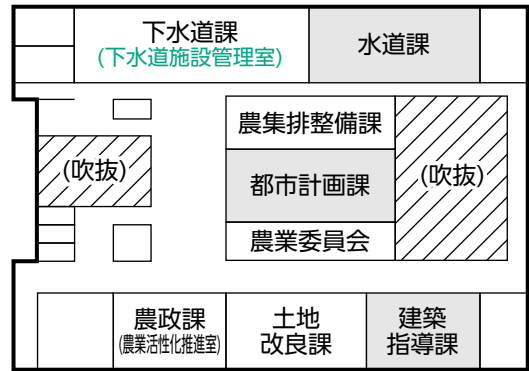
緑の文字は名称変更した課を、■塗りつぶした箇所は場所の変更があった課を示しています。

4月から変更になりました

【三和庁舎】 平成26年4月から「建設部」は、総和第2庁舎から【三和庁舎】に移転となりました。



1階

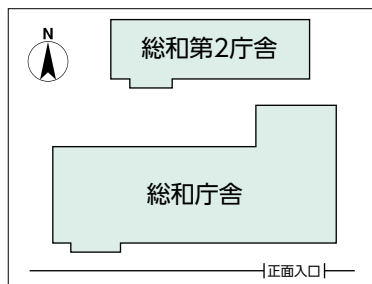


2階

5月までに変更になります

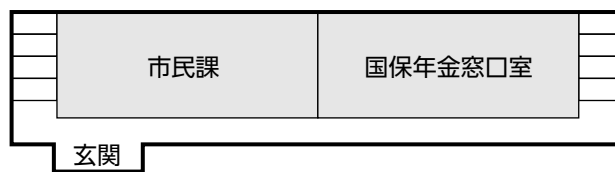
【総和庁舎・
総和第2庁舎】

平成26年5月までに【総和庁舎旧館】が閉鎖され、「市民課」「国保年金窓口室」「人権・男女共同参画室」「子育て対策課」「子育て応援課」「市民サービス課」「観光交流課」「商工政策課」「消費生活センター」等が【総和第2庁舎】に移転となります。

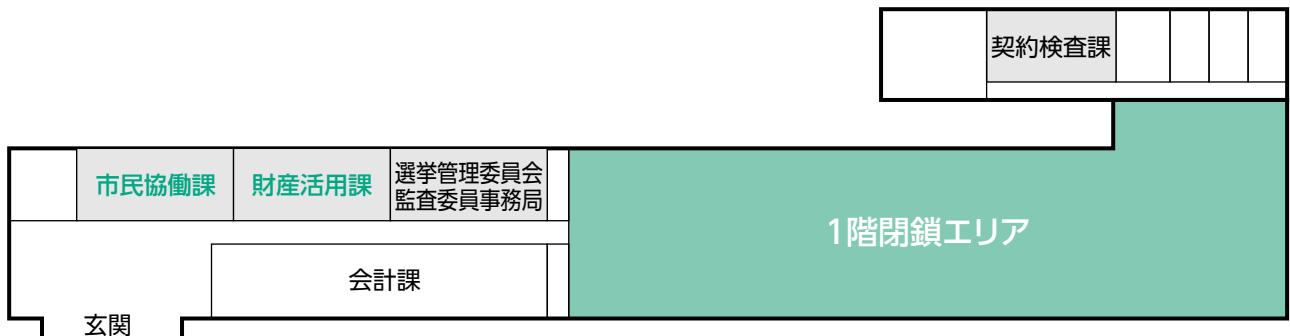


▲総和庁舎位置図

1階



総和第2庁舎1階



総和庁舎1階

※旧館は5月までに閉館となります。

2階

総和第2庁舎2階

| | | |
|-----------------------|------------------------------|--------------------|
| 市民サービス課 (市民相談センター) | 子育て応援課 子育て対策課 (子ども政策室) | 人権・ 男女共同 参画室 |
|-----------------------|------------------------------|--------------------|

総和庁舎2階

| | | |
|---------|---------------------------|---------|
| 総務課 | 企画課 | 2階閉鎖エリア |
| 危機管理防災課 | 交通防犯課 企画課 (行政改革推進室) | |

3階

総和第2庁舎3階

| | | |
|-----|---------------|--------------------------------|
| 会議室 | 観光交流課 観光協会 | 商工政策課 (企業誘致推進室) 消費生活センター |
|-----|---------------|--------------------------------|

総和庁舎3階

| | | |
|-------|-----------|---------|
| 特別会議室 | 副市長室 | 3階閉鎖エリア |
| 秘書広報課 | 公室 市長室 | |

古河庁舎・古河福祉の森会館内の配置に変更はありません。

総和福祉センター「健康の駅」および三和庁舎の【健康づくり窓口】は、4月から廃止となりました。三和庁舎での母子健康手帳交付申請のみ、国保年金窓口室が引き続き対応します。



▶ 総和第2庁舎



◀ 三和庁舎



注目!

まちの話題

それぞれの夢に向かって
卒業式

3月12日に市内9中学校で、19日に市内23小学校で卒業式がそれぞれ行われました。小学校1,315人、中学校1,322人の卒業生がたくさんの思い出と新たな希望を胸に、通い慣れた学校を巣立っていきました。

三和中学校では、在校生や保護者らに見守られる中、涙を浮かべ、恩師や友人たちとの別れを惜しんでいる生徒たちの姿が見受けられました。また、最後に3年間の思いを込めた合唱を披露し、恩師に手づくりの感謝状を手渡しました。

卒業生の皆さん、これから新たな生活がスタートします。夢への第一歩に向けて頑張ってください。



▲思い出が詰まった3年を振り返りながら卒業証書を受け取る卒業生(三和中)

華むすめが安倍首相を表敬訪問 桃まつりをPR



▲安倍首相へ桃の花をプレゼント

2月21日、古河市観光協会と華むすめの4人が「桃まつり」をPRするため、安倍晋三首相を表敬訪問しました。「矢口」という種類のハナモモを受け取ると「大変華やぎました」と笑顔を見せてくれた安倍首相。

5種類のハナモモ約1,500本が咲き誇る桃まつりのPR活動をした華むすめ。一足お先に首相へ春をお届けしました。

地域の活性化と出会いの場 「古河コン」



▲出会いを求めてたくさんの方が集まりました

皆さんは「街コン」をご存じですか。街コンとは、地域に密着して開催される大規模な合コンイベントです。最近では、地域の商店街や飲食店の集客に貢献できるイベントとして、全国各地で注目されています。

古河市でも、2月16日に「古河コン」が初めて開催され、20歳から45歳の人を対象に、市内外の男女488人が集まりました。駅周辺の飲食店21店舗では、おいしい料理や飲み物が振る舞われ、参加者は会話に花を咲かせ、大いに盛り上がりました。

災害時に活用できる知って得する ごはん講座



▲フライパン一つでできるトマト
パスタとミルクスープを作りました

新聞紙皿に入ったスープ

東日本大震災から3年が経過した3月11日。総和福祉センター「健康の駅」で、災害時に活用できる知って得するごはん講座が開催されました。

当日は20人が参加し、ジッパー付き保存袋を利用したご飯や缶詰など常備食を使った料理を作り、新聞紙皿を使った試食を体験。講座の中で「これならできる」「日常でも使える」「おいしい」という声が聞こえてきました。他にも、災害時の備えや健康に関する講話も行い、参加者はあらためて「備えと健康でいること」の大切さを実感したようでした。

地域の交通安全を願い 常夜灯を設置

古河赤十字病院にほど近い、県道古河総和線の道路脇に昨年12月、高さ2.4メートルの「常夜灯」が建てられました。「広げよう どうぞの気持ちと 車間距離」と標語が書かれた看板も設置されています。

この常夜灯を設置したのは、上辺見在住の植竹宇太郎さん(70歳)。自ら設計し、建築しました。植竹さんによると、この付近は交通量が多く、小中学校や高校が近いため通学路になっているそうです。「車も自転車も、徒歩の人たちも、一人ひとりが交通安全を心掛けることが大切。看板の標語は毎月入れ替えをして、交通安全を呼び掛けています」と話す植竹さん。

地域を思い建てられた常夜灯は、雨の日も風の日も、地域の交通安全と児童生徒の通学を見守っています。

売り切れ続出！ 第9回 古河朝市



▲元気あふれる声が飛び交いました

3月2日、筑波銀行古河支店駐車場で第9回古河朝市が開催されました。

23店が出店した会場では、早朝から駆けつけた多くの買い物客でにぎわいました。那珂湊直送の魚介類や古河の新鮮野菜、果物、名産・特産品などが店頭並び、各ブースでは売り切れが続出するほどの盛り上がりを見せていました。

また、売り手と買い手の言葉のやり取りも市場ならではの楽しみの一つ。会場内いたるところで温かな触れ合いと笑い声や話し声がこだまする活気に満ち溢れた朝市でした。



▲「看板の標語は知人が毎月書いてくれています。悲しい事故を減らすために、協力してくれる、みんなの気持ちがいいですね」と話す植竹さん

キラッ! 輝く人たち

昨年10月26日、東京ビックサイトで自動車整備業界最大のイベント「第19回全日本自動車整備技能競技大会」が開催されました。

全国から53チーム(106人)が出場し、自動車整備士の頂点を競いあうこの大会。茨城県整備振興会チームの一人として参加し、みごと優勝した澤口奈央さんに、大会の様子と自動車の整備について伺いました。

全日本自動車整備技能競技大会

この大会は、一般社団法人日本自動車整備振興会連合会が自動車整備の技術向上を目的に、2年ごとに開催している整備業界最大の競技大会です。優秀な整備士が実車競技、基礎作業競技、アドバイザー競技の3つの競技の合計得点を争うものです。

競技は、実車の整備点検やお客様への対応などをロールプレイング形式で競う、日常の現場に即した内容です。

大会に参加して

昨年7月の茨城県予選会で選出され、全国大会への出場が決まりました。その後、見学に行った他県の予選会を見ての感想は「こんなにレベルが高いのに出場して大丈夫かな」という不安でした。



▲中央が澤口さん(株)共栄自動車商会
左は吉田さん(株)三和トヨペット・境町在住)

「知識と経験の点検」

澤口 奈央さん
(39歳・尾崎在住)



しかし、目標が見えてきてからは練習への意気込みが変わりました。パートナーの吉田一夫さんと当日のシミュレーションを何度も行い臨んだ本番。競技終了10分前には、作業を終了しようとしていましたが、想像を超えた会場の雰囲気と緊張から本番ではそのことを忘れ、時間ぎりぎりまで作業に取り組んでしまったそうです。

成績発表で自分たちの名前が呼ばれたときは信じられず、いろいろな人からお祝いのメッセージをもらってやっと「優勝」を実感したと話す澤口さん。

「大会の練習で多くの知識と高い技術に触れることができました。すべてのお客様に、安心して自動車を使っただけのように知識と技術をさらに高めていきたい」と今後の目標を話していました。

自動車を使うみなさんへ

最後に、整備士として自動車を使う人に対してのメッセージを伺いました。

「自動車はとても便利なものです。でも、不具合があると自分だけでなく周りの人に大きな危害をあたえる可能性があります。法定点検だけでなく、日常のメンテナンスを行ってください。そして、気になることがあれば、整備士などに早めに相談することが、自動車を安心して使うことにつながります」と話してくれました。

図書館のオススメ

◇一般書

・花のベッドでひるねして

よしもと ばなな 著
うっとりとした花のベッドに寝ころんでいるような生き方をするんだー。神聖な丘に守られた小さな村。みなしごの女の子と、いとおいしい家族。幸福で満ち足りた時間が流れる希望の物語。
出版社…毎日新聞社
分類…Fヨ



◇児童書

・おりがみにんじゃ

つきおか ゆみこ 作
あずき 小豆の国の宝を探しに出かけた、おりがみにんじゃ。呪文を唱えて、鳥や恐竜に大変身！みごと、宝を見つけることができるのか…！？ おりがみのおり方や絵探しも収録。
出版社…あかね書房 分類…Eオ

・三千と一羽がうたう卵の歌

ジョイ・カウリー 著
養鶏場を経営するミラー夫妻の一人息子ジョシュのペットは、年とったメンドリのセモリナ。人間の言葉をしゃべるといっても誰も信じてくれないのは、セモリナがジョシュとだけ口をきくから。おこりっぽくて、おしゃれなメンドリのセモリナと、新たな命の誕生をむかえる少年と家族の物語。
出版社…さ・え・ら書房
分類…933サ



・生きて動いている「化学」がわかる

齋藤勝裕 著
日本は化学立国ともいえるほど、化学のチカラが産業や医療などさまざまな面で重要な役割を果たしている。現在の産業や製品を理解する上で役立つ「生きて動いている化学の知識」を提供する。

古河図書館

注目企業人!

～市内の企業を元気に支えるみんなを紹介～
「日々改善を追及しています」

王子コンテナ株式会社勤務 土田 裕貴さん

高校卒業後、段ボールシート・ケース等の製造販売や包装機械の開発・販売を行う会社に就職したのは3年前。現在は、食料品や電化製品の梱包に使用する段ボールケースの製造ラインで、段ボールシートを印刷機械に供給する工程を担当しています。シートの大きさは、横2m×縦1mの大きなものから小さなものまでさまざま、1日に約4万枚を加工してケースを製造しています。

「ケガをしないように細心の注意を払いながら、高品質の製品を提供しています」と話す土田さん。どんなに小さなことでも異変を感じたときはその都度調整し、最善の状態の一つひとつ製造するように心掛けています。

尊敬している人は、よく面倒を見てくれる直属の上司。「上司から褒められたときが一番嬉しい」とまるで少年のような笑顔で話します。

今後次なるステップを目指し、精密機械の操作習得に励んでいます。また、日々業務の改善を追及している土田さんは、会社の労働組合員としても積極的に活動し、より良い職場環境になるよう努めています。

■プロフィール

休日は、高校時代から始めたロックバンドのボーカルとして都内まで足を運び、ライブを行っています。21歳・久能在住。



古河文化見聞録

江戸時代の旅日記

— 『伊勢参宮道中記』 を読む —

伊勢参宮の旅

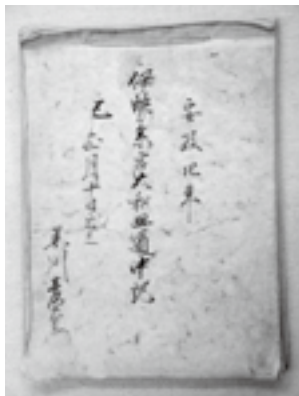
昨年、平成25年は、20年に一度の伊勢神宮式年遷宮(第62回)の年でした。ちなみに昨年の伊勢神宮参拝者数は1,420万人で過去最多を更新したそうです。

伊勢参宮は「一生に一度は伊勢参り」といわれるほど、人々の夢であり憧れでした。江戸時代の庶民は自由に旅行をすることはできませんでしたが、伊勢神宮や神社仏閣への参詣であればそれが認められていました。

人々は伊勢参宮だけではなく、それを名目に途中の寺社や名所・旧跡などを訪ね、参宮をすませた後は、奈良・大坂・京都や四国まで足を延ばし帰ってくるという物見遊山を兼ねた旅に出ました。筆まめな人は旅日記「伊勢参宮道中記」を書き残しています。

『伊勢参宮大和廻道中記』

『伊勢参宮大和廻道中記』は、上大野村(市内上大野)の黒川彦右衛門が記した、安政4(1857)年1月10日に同行11人で中田宿から伊勢参宮の旅に出立し、3月3日に古河に



◀ 『伊勢参宮大和廻道中記』表紙

帰着するまでの53日間の旅日記です。通過した宿場名、距離(里数)、宿泊した宿所、名所・旧跡、名物、河川、山、峠、参詣した寺社名と御朱印高、大名の名前・石高、宿賃、船渡し賃、駕籠賃、馬賃などが簡単に記されています。文字もきれいで読みやすく、保存状態から参宮の旅から帰着後にまとめて、清書したものと考えられます。

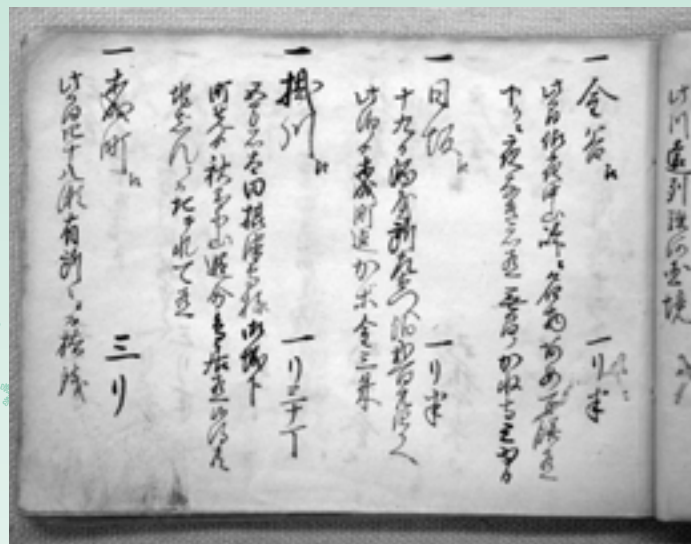
彦右衛門一行は、東海道を通り伊勢参宮までの途中、鎌倉などに立ち寄り、参宮の後は奈良・吉野・高野山・大坂・四国の金比羅宮・京都などをまわって中山道を通り、信濃善光寺などに寄って帰着しています。

ここでは道中記に記された内容からいくつかピックアップして紹介します。

名物—「奈良茶飯」「飴の餅」

1月13日、一行は川崎宿の万年屋で昼食を食べています。万年屋は品川宿と川崎宿の間にある多摩川の六郷の渡しを渡った所に店を構え「奈良茶飯」が名物として知られていました。道中記には何を食べたかは記されていませんが、当然名物「奈良茶飯」を食べたことが想像されます。

1月19日に一行は大井川を渡り金谷宿の先、小夜の中山峠を越えることとなりますが、この峠には「夜泣き石」の伝説があり、峠を下った所にその石がありました。現在でもこの「夜泣き石」の伝説にちなむ「子育て飴」という水飴が売られていますが、当時の峠の名物として「飴の餅」が知られていました。道中記には「名物あめで餅」と記されていますが、安倍川餅のように小さくちぎった餅に



▲『伊勢参宮大和廻道中記』 「あめで餅」「夜泣き石」 「秋葉山追分鳥居」の記載部分

水飴をかけたものだったようです。峠の茶屋で「夜泣き石」の伝説を聞きながら、「飴の餅」を食べて一服したことが想像されます。

地震の爪痕

平成23年3月11日の東日本大震災から3年がたちましたが、道中記のなかにも地震の爪痕の記載が見られます。

1月20日、掛川宿にて「町先より秋葉山追分鳥居有候得共、地じん(震)にてたおれて有」という記載があります。一行は東海道掛川宿より秋葉街道に入り秋葉神社に向かいますが、その追分(分岐点)にあった石鳥居が地震で倒れたままであったことを記しています。

これは安政元(嘉永7年・1854)年11月4日に発生した安政東海地震のときに倒れたものと思われます。この地震はいわゆる南海トラフ巨大地震であり、掛川宿は震度6~7であったと推定され、この時に掛川城の天守閣は倒壊し、掛川宿は出火によりほとんどを焼失したといわれています。

旅の案内図

この参宮の旅で、あるいは事前に入手したと思われる資料があります。一行が京都で宿泊した筑前屋治郎左衛門が発行した木版刷りの『大和めぐり順案内の図』2点です。奈良を中心に伊勢・長谷・高野山・京都・大坂などへの街道と宿場名を記した絵図で、うち1点は裏面に「大和めぐり 奈良道伊賀越本道」として、地名や寺社名と里数が記されています。

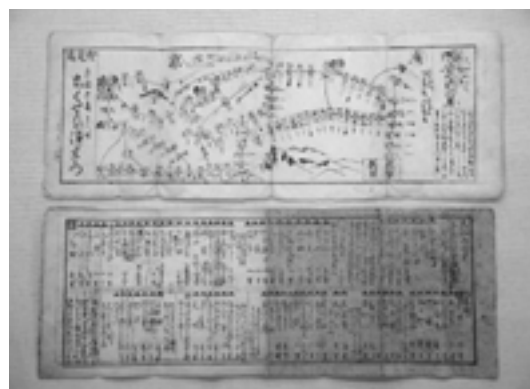


◀小夜中山の「夜泣き石」

このような絵図は旅の案内図として、おおいに重宝したことと思われます。

今回取り上げた『伊勢参宮大和廻道中記』の詳しい内容については、4月19日(土)から三和資料館で開催する第20回館蔵資料展「江戸時代の旅日記～『伊勢参宮道中記』を歩く～」で紹介します。ぜひ、ご観覧ください。

三和資料館学芸員 小林 靖



◀『大和めぐり順案内の図』

暖かくなり外出するのが気持ちいい季節ですね。

高齢者のみなさん、体を動かしていますか？

誰でも気軽に簡単にできる「散歩」ですが、実は健康維持にとっても効果的です。

散歩〇×クイズ

- Q1 散歩は認知症予防になる。
- Q2 おしゃべりしながらの散歩では、運動効果がない。
- Q3 散歩をすると自律神経の調整・ストレス解消になる。

※正解は19ページの下部にあります。



おすすめ!

楽しく歩くための5つのコツ

①計画する

季節や天候で、ときどきコースを変えて、**脳を常に刺激しよう**

②気づく

四季や風景、自然の変化を感じて、**五感を磨こう**

散歩の効果

歩くと血流量がアップして脳に新鮮な血液がめぐり、必要な栄養素が全身にいきわたることで、認知症の予防につながります。外を歩くため、車などに気を付ける注意力も必要です。脳に非常に良い刺激になります。

ゆっくりおしゃべりしながらの散歩でも、運動の効果は十分あります。散歩は有酸素運動です。家でゴロゴロしているときと比較して、カロリー消費は3倍です。また、友人や家族との楽しいコミュニケーションの機会にもなります。

『散歩＝体の健康』と思いがちですが、こころもリラックス、リフレッシュすることができます。風景や外の風を感じることで感受性が豊かになり、癒し効果も生まれます。

気負わず楽しく歩き、若々しさと健康を保ちましょう。

③伝える

周囲との積極的なコミュニケーションで、**若い心を保とう**

④記録する

体験を文字に整理し日誌をつけて、**脳を活発に働かせよう**

⑤振り返る

日誌(メモ)を見ることで、**目標と自信を持つよう**

歩くときに気をつけたいこと

○水分補給を!

一番注意したいのが水分補給です。汗だけでなく、呼吸で吐く息からも水分は出て行きます。

短い距離だから、短時間だから大丈夫と言わずに、必ずペットボトルを持っていくなど、のどが乾かなくてもこまめに水分補給をしながら歩きましょう。

○姿勢を意識して!

高齢の人は歩いているうちに姿勢が悪くなっていくことが多いので、意識して背筋を伸ばすようにしましょう。姿勢が悪いと背中や腰に負担がかかってしまいます。

高齢福祉課

憩いのパークの魅力

ネーブルパーク研修センター「平成館」



ネーブルパークでは、木々の芽も日増しに膨らみ、新しい季節の到来を感じられるようになりました。

今回は、その中にたたずむ「研修センター 平成館」の宿泊施設を詳しく紹介させていただきます。

平成館は和室が6部屋、洋室が10部屋、最大94人の宿泊が可能です。部屋には冷蔵庫、バスタオル、歯ブラシなどもご用意してあります。

そして、大浴場で1日の疲れを癒した後は、館内にある緑に囲まれた解放感たっぷりの「レストラン木立」で、季節折々のボリューム満点の食事をお召し上がりください。

平成館はお一人様から、ご家族連れ、合宿などの大人数まで、お客様の用途に合わせてご利用できます。



▲ゆっくりくつろげる和室

平成館スタッフ一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

※大人1泊4,000円(素泊まり)から。

※食事は別途要予約。

※小中学生・幼児も別途承ります。

【予約は下記へ問い合わせください】

ネーブルパーク研修センター「平成館」 ☎91-2080

☎<http://www.koga-kousya.or.jp/heiseikan/index.htm>



▲明るく清潔な浴室



▲緑に囲まれ開放的なレストラン「木立」

表紙写真



うららかな春。花桃や桜が花びらを開き、春の訪れを告げてくれます。

古河総合公園の花桃(写真左)は、「矢口・源平桃・菊桃・寿星桃・寒白」の5種類があり、桃林は鮮やかなピンク色で染まります。

花桃から桜へ、春の彩りはバトンタッチ。市内の桜の名所は、約2キロメートルにわたる四季の径の桜並木(写真右)、春風に舞う桜の花びらが池の水面を彩るネーブルパーク、桜を眺めながらバーベキューが楽しめる三和ふるさとの森などがあります。

天気がいい日に市内を散策して、やわらかな日差しを浴びながら、“古河の春”を満喫してみたいはいかがでしょうか。

古河市データ

人口



(3月1日現在) 住民基本台帳から
総人口… 145,617人 (-127)
男……………73,142人 (-56)
女……………72,475人 (-71)
世帯数…57,558世帯 (+17)
() 内は前月比

※18ページ「散歩〇×クイズ」の答え Q1〇、Q2×、Q3〇

わが家のアイドル



高橋椿来くん (8カ月・女沼)

いつもニコニコ椿来くん♥

一番パパに似て、男らしい顔してるね。それに一番活発!! 上のお兄ちゃんたちにも負けません。これからも兄弟なかよく、すくすくと健康に成長してね♥

(父:保 母:幸枝)

今月の料理

春キャベツのスープ

<高血圧予防食>



- ① フライパンにオリーブ油小さじ2を入れ熱し、ベーコン4枚(1センチ幅)、大豆水煮100gを炒める。
- ② 水800ml、くし形に切ったキャベツ1/2個を加えてゆっくり煮る。塩小さじ1/4で味を整える。
- ③ 器に盛りつけ、粉チーズをふりかける。好みでコショウをふる。

<4人分>

(1人分)
エネルギー=212kcal
タンパク質=8.9g
脂質=16.2g
カルシウム=76mg
食塩相当量=0.7g



(食生活改善推進協議会)

日々奮闘!



子育てアドバイス

爪切りで親子ふれあいタイム



お座りができるようになったら膝に抱いて、もう少し大きくなったら何気ない親子の会話を楽しみながら爪を切りましょう。リラクセスしている状態のときは受け入れやすく、親子のふれあいの

子どもの爪は伸びるのが早くて驚きますよね。そのままにしていると衛生的にもよくありませんし、衣服に引っかかって爪がはがれたり、欠けたりすることがあります。できるだけこまめにお手入れしてあげたいですね。そこで、スムーズに行うコツをつかんで、親子で爪切りタイムを楽しんでみましょう。

●寝ている間に切る
簡単でスムーズな方法です。眠っている間にそっと切り、途中で起きてしまったときは無理せず、次の機会を待つようにしましょう。

●抱っこしている間に切る
お座りができるようになったら膝に抱いて、もう少し大きくなったら何気ない親子の会話を楽しみながら爪を切りましょう。リラクセスしている状態のときは受け入れやすく、親子のふれあいの

●爪用の紙やすりを活用する
時間となります。とても嫌がる場合は爪用の紙やすりを使い、「きれいにしましょう! シュツ! シュツ! シュツ!」と歌うように話しかけて、遊び感覚で行ってみるのも良い方法です。

昔から『爪は健康のパロメーター』といわれるほど、健康状態が敏感に反映されます。爪切りは単に爪を短く切ることだけではなく、健康管理につながると共に大切なコミュニケーションの一つです。子どもにあった爪切りの方法を見つけて、週に一度を目安に、ふれあいタイムを楽しんでみてはいかがでしょうか?

春風に誘われて外出の機会も多くなるこの季節、思いっきり遊べるように心も身体も健康に整えてあげましょう。

第五保育所

平成26年4月1日発行

発行所/〒306-0291 茨城県古河市下大野2248 古河市役所
編集/秘書広報課 ●ホームページ/ <http://www.city.takaraki-koga.jp/>

☎0280(92)3111